

演題 26. *Helicobacter pylori* 除菌により改善が認められた鉄欠乏性貧血の一例

○赤間陽太 丸山英行 吉崎英清（千葉県済生会習志野病院）

【はじめに】近年 *Helicobacter pylori*（以下 *H. pylori*）は消化器疾患の他、鉄欠乏性貧血（以下 IDA）や特発性血小板減少性紫斑病（ITP）との関連が示唆されている。*H. pylori* 陽性患者の IDA が除菌によって改善されたとの報告があるが、鉄剤投与による治療も併用されるため、除菌のみで IDA が改善されたという証明に乏しい。今回、IDA を再燃した患者同意のもと、鉄剤を投与せずに *H. pylori* 除菌治療のみで IDA の改善が見られた症例について報告する。

【症例】21 歳、男性。15 歳時に IDA と診断、*H. pylori* 抗原陽性であったため、鉄剤投与に加え *H. pylori* 除菌治療が行われ IDA が改善された。H18 年 7 月に IDA 再燃の疑いで当院受診。受診時の検査結果では、Hb9.7g/dl、血清鉄 14 μ g/dl と低値を示し、糞便中の *H. pylori* 抗原陽性、便中ヘモグロビン陰性（下部出血なし）であった。*H. pylori* の除菌のためアンソラ[®] 800 を一週間内服。H18 年 8 月 15 日に除菌確認で行った糞便中 *H. pylori* 抗原は陰性となった。その後の定期的な血液検査で徐々に Hb と血清鉄の改善が認められ、H19 年 8 月 4 日には Hb14.1g/dl、血清鉄 83 μ g/dl と改善され現在再燃を認めていない。

【まとめ】*H. pylori* 感染による IDA の起こる機序は、鉄の吸収阻害や宿主であるヒトから鉄を奪ってしまうことなどが原因と考えられている。鉄剤を投与せずに *H. pylori* の除菌のみで治療を行ったところ、徐々に IDA の改善が見られた。このことから、今回 IDA 再燃は *H. pylori* の再感染が大きな要因であると考えられた。原因不明の鉄剤不応性あるいは鉄剤依存性の IDA では *H. pylori* 感染を考慮し、感染が確認された場合は、積極的な除菌療法も視野に入れる必要があると思われた。

047-473-1281(内線 2704)